急病や事故はいつ起こるかわかりません。もしも目の前で家族や友人が倒れたとき、皆さんは正しい処置ができますか。万が一のとき、私たちにできることや今から知っておくべきことを消防本部の救急救命士に聞きました。

写真：出動訓練の様子（実際の出動時は、マスクを着用します）。

特集

私たちにできること

9月9日は救急の日

生存者数の割合の差は約2倍

1883件。これは昨年1年間、市内で救急車が出動した件数です。1日平均だと5・15件出動したことになります。

近年、救急車の出動件数は増加傾向。それに伴い、救急車が到着するまでの間、救急隊員ではない一般の人が応急手当をするケースが多くなっています。

総務省消防庁のデータによると心肺停止の人に一般市民が応急手当をした場合と、しなかった場合では1カ月後の生存者数の割合に約2倍の差があるという数値が示されています。目の前の命を救うために、救急隊員だけでなく私たちも知識を身につけておくことが大切です。

▲出動時に必要なヘルメットや感染防止衣などはすぐに着用できるよう準備しています。

応急手当を自分事と思ってほしい

「昨年のデータでは、市消防本部の救急車は、平均して約９分で現場へ到着しています。到着までの間は、通報者や近くにいる人が傷病者に応急手当を行わないといけない場合があります」と話すのは、市消防本部救急救命士の安松賢吾主任。「市民の皆さんには、自分も処置をする場面があると思っていただきたいです」と続けます。

市消防本部では、企業や自治会向けに救急講習を開催して、知識や技術を身につけられるよう指導しています。昨年は１１９回の講習を行い、２８１０人が受講しました。

新型コロナウイルス対策をしながら今年度も引き続き講習を行っています。消防本部警防課に申し込むことで受講できます。

消防本部警防課
安松賢吾主任

▲119番通報に対応する通信指令室。出動指令もここから行います。

一人一人の意識で救える命

「私は、傷病者やその家族に安心感を与えられるよう活動することが大切だと思っています」と救急活動への思いを語る安松主任。加えて、救急活動には、市民一人一人が応急手当の知識を身につけることや救急車が到着した際の誘導など、協力体制を整えてもらうことが必要だと言います。

一人でも多くの命を救えるように、また、傷病者が少しでも早く元通りの生活ができるようにするには、市民の皆さんの協力が不可欠です。

問い合わせ：消防本部警防課
☎23-3409

2

・助けを求め、協力者が駆けつけたら、「119番通報をしてください」「AEDを持ってきてください」と具体的に依頼する。

3

・傷病者が「普段どおりの呼吸」をしているかどうかを確認する。
・傷病者のそばに座り、10秒以内で胸や腹部の上がり下がりを見て判断する。

・両ひじをまっすぐ伸ばして真上から垂直に胸が約5㎝沈むまで行う。

・胸の左右真ん中にある胸骨の下半分を重ねた両手で圧迫する。

5

・AEDを装着。音声に従い、必要であれば電気ショックを行う。

救急車の中をのぞき見！

▲救急車で現場に行くときは、原則、救急救命士が同乗します。

▲医療器具は、すぐに使えるようにバッグにまとめてあります。

▲心電図や血圧などを測る器具。電気ショックもできます。

救命処置が必要な状態にならないように

病気によっては、わずかな症状から命に関わる病気に発展するものもあります。異変があるときは早めに119番通報をして、救急車を呼んでください。

また、救命という点では適切な処置の習得と同じく、事前の「予防」も大切とされています。例えば、小さな子どもがおもちゃなどを誤飲することがないようにしたり、心筋梗塞や脳卒中にならないように生活習慣に気を遣ったりと、突然死を未然に防ぐことが重要です。そのため、消防本部では、救急講習の実施と「予防」の呼びかけを進めています。

いつ起きるか分からないことだからこそ、この機会に「自分に何ができるか」に目を向けてみませんか。

消防本部警防課
木山収司主査

救命処置の流れ

- 周囲の安全確認
- ①反応なし　大声で応援を呼ぶ。
- ② 119 番通報・AED 依頼　通信指令員の指示に従う
- ③呼吸の確認
- 呼吸なし / 死戦期呼吸（※）
- ④直ちに胸骨圧迫をする　強く、速く、絶え間なく。
- ⑤ AED 装着　心電図解析

119 番通報をすると、通信指令員が具体的な指示をわかりやすく教えます。

→ 普段どおりの呼吸あり：様子を見ながら応援、救急隊を待つ。

必要であれば、電気ショックをする。必要なければ、胸骨圧迫を再開。

※途切れ途切れに起きる呼吸

1

・声をかけながら肩を優しくたたき、反応があるか確認する。

4

・「普段どおりの呼吸」がない場合、直ちに胸骨圧迫を始める。